

伊豆太陽地区本部いちご委員会
は、3人の生産者がイチゴ育苗棚
「すくすく棚」を試験導入しました。
同委員会では約4割の生産者が苗
の病気等で育苗に苦慮しています。
すくすく棚は地面に固定せずに
使用でき、移設も容易です。高設化
で地熱の影響を抑え風通しも良く、
降雨やかん水の水はねによる病原

育苗棚導入で病害虫によるイチゴ苗のロス削減 作業効率も向上し省力化に



あぐりチャレンジ事業 — 伊豆太陽地区 — 伊豆太陽地区本部 いちご委員会

◀「かがまなくても作業できる」と苗の管理
をする副委員長の松本起久生さん



生産者の体格やほ場にに合わせてカスタマイズできる「すくすく棚」

菌拡散を軽減できます。
試験導入した生産者らは、「根の
変色も見られなくなり、苗が健全
に育った」「昨年は作付面積の半分
は苗を購入したが、今年は全部自
家苗で定植できた」と経費節減の効
果を評価。「膝や腰への負担軽減と
動線の短縮化ができ、作業効率も
改善した」と話しました。



特集 自己改革 未来を耕す あぐりチャレンジと サポートの現場から



J Aは、農業所得の向上と生産組織の基盤強化を目的に、発足当初から助成事
業「あぐりチャレンジ事業」を実施しています。加えて、組合員の持続可能な農業
経営をサポートするため、「あぐりサポート事業」で営農費用の一部を支援（助成）
しています。今回の特集は、令和6年度「あぐりチャレンジ事業」の進捗の一部と
新設の「あぐりサポート事業の高温障害対策」の取り組み状況を紹介します。

「農業所得の向上」「生産組 織の基盤強化」に向けて

あぐりチャレンジ事業は、意欲あ
る生産組織の農業所得の向上や農
業生産の拡大、生産組織の基盤強化
に向けた新たな取り組みを支援す
るものです。助成を受けた各生産組
織は、営農アドバイザーと共に事業
を計画・実践し、目標の達成を目指
します。

令和6年度は7品目17件、合計助
成金額1823万3400円で、現
在各事業を実践中。令和7年度分
は8品目10件の事業を採択し、計8
44万7000円を順次助成してい
ます。

「あぐりサポート事業」で 高温障害対策に対応

年々夏の暑さは厳しくなり、農作
物への被害に加え、熱中症などの人
的被害も心配されます。

J Aは、農家組合員の持続可能な
農業経営支援に向け、生産にかかる
費用の一部を支援する「あぐりサ
ポート事業」に、令和7年度から「高
温障害対策」にかかる助成内容を新
たに追加。遮光剤散布や空調服の購
入費用などを支援しました。
※あぐりサポート事業の「農業用ハウ
ス導入促進対策」と「高温障害対策」は
予算の上限に達したため、9月30日
で新規の受付を終了しました。

あぐりチャレンジ事業実績 11月7日現在

年度	件数	合計助成金額(円)
令和7年度	10	8,447,000(予定)
令和6年度	17	18,233,400
令和5年度	22	16,762,400
令和4年度	27	24,745,200
合計	76	68,188,000



あぐりチャレンジ事業 — 三島函南地区 — 三島函南苺委員会

◀環境モニタリングシステム
「はかる蔵」を試験導入



スマホでハウス内の環境をチェックする石井さん

環境モニタリング装置で栽培環境を数値化し共有 栽培環境改善で収量アップへ

三島函南苺委員会は、8人のハウ
スに環境モニタリング装置「はかる
蔵」を導入しました。

同装置はハウス内の温度・湿度・
地温・CO₂濃度・日射量を測定し、数
値化して保存。測定値はスマホやパ
ソコンで確認でき、飽差（ハウス栽
培植物の代謝活動に関わる要因）な
ども見ることが出来ます。また、8
人のデータを共有し比較すること

も可能です。

前委員長の石井孝克さんは「ハウ
ス内の環境を把握し、育成分析がで
きて役立つ。23人の部員で情
報を共有し、組織活動の活性化に
もつなげる」と期待します。

同委員会では、データを蓄積し、
ハウス環境を改善して1株当たりの
収量を2.5パックから2.8パック
に増やしていく計画です。

「あぐりサポート事業」では、組合員の皆さまの切実なご要望に応え、高温障害対策を新設しました。ハウス内の温度上昇抑制や過度な直射日光から保護する遮光剤、寒冷紗、遮光ネットなどの購入費に加え、熱中症予防が目的の空調服や空冷ベストなどの購入費の一部を助成し、猛暑による農作物への影響や農作業中の熱中症対策を支援しています。

あぐりサポート事業で「高温障害対策」を新設



苗の生育を確認する中田さん

あぐりサポート事業

高温障害対策に新たな支援あぐりサポートで現場を後押し

従業員の熱中症予防対策に活用

伊豆の国地区のイチゴ生産者・中田伸介さんは、夏季の育苗管理をパート従業員と共に従って、高温による熱中症リスクが大きな課題でした。「毎年、高温で熱中症寸前になるパートさんがいて、安全面



熱中症対策に自身と従業員の空調服を導入

各地区では、高温障害対策の一環として、イチゴハウス内の温度上昇を抑制する遮光剤散布への助成も行われました。中田さんは「近隣で行っている遮光剤のドローン散布のデモの案内などを、興味を持った。効果を聞きながら、今後取り入れてみたい」と、次の対策にも前向きな姿勢を見せたい。

「あぐりサポートのような助成事業は、私たち生産者が安全対策や新たな設備投資に踏み出すきっかけになる。今後も現場の声を反映しながら、継続・発展してほしい」と期待を寄せました。

令和7年度あぐりサポート事業実績(高温障害対策)

10月26日現在

	申請受付件数	合計助成金額(円)
高温障害対策(遮光剤・寒冷紗等)	120	2,096,000
高温障害対策(空調服・空冷ベスト等)	585	5,818,000



ドローンでイチゴビニールハウス屋根に遮光剤散布(伊豆の国地区)

JAでは、今後も組合員の皆さまの声を大切にしながら、実効性のある農業支援策を展開していきます。

乾燥ストレスで甘さアップ！シールディング・マルチ栽培に挑戦

あいら伊豆柑橘部会は、伊東市でシールディング・マルチ栽培の試験に1月から取り組んでいます。畝の周囲に壁のように60センチほど専用シートを埋設し、かん水設備を導入した上で、地表にマルチシートを設置。これにより木に乾燥ストレスを与えて糖度を高め、高品質果実の安定生産を図ります。部会員の木村征治さんは「糖度の

向上に限界を感じていた。おいしいミカンを作りたい」と同マルチを導入。「青島温州」と「ゆら早生」の2品種で試験を実施しています。今回試験栽培した果実を分析したところ、糖度が上がり、目標とする糖度と酸度に達しました。同部会は、同マルチ導入で栽培技術を向上させ、高品質なミカンの安定生産で高単価を目指します。



あぐりチャレンジ事業 — あいら伊豆地区 — あいら伊豆柑橘部会

◀甘みがのった「ゆら早生」を収穫する木村さん



▶専用シート(Sシート)を垂直に埋設



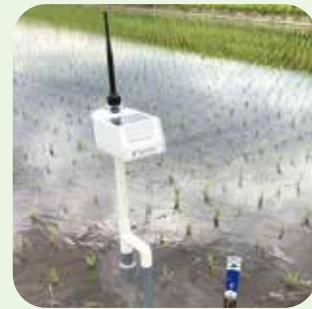
↑専用シート

◀ほ場の地表面にはマルチシートを設置

水田の水管理をスマホで可視化品質均一化や高温障害対策にも

御殿場・小山エコ栽培米出荷組合は、スマホを使って水田の水位と水温が確認・記録できる「水位センサー」を組合の水田に設置しました。食味の高い生産者の水管理のデータを組合で共有し、品質向上と均一化を目指します。加えて、米の高温障害対策にも期待が持てます。高温障害対策として、水温が高い時に水の入れ替え

を行う方法があります。水位センサーは、スマホで水温を確認できるため、即座に水の入れ替えを行うことが可能です。同組合長の遠藤博雄さんは、「施肥や防除などのデータはあるが、水管理のデータは取りづらいこともある。水管理が可視化でき次世代につなげやすい。省力化にも期待している」と話しました。



あぐりチャレンジ事業 — 御殿場地区 — 御殿場・小山エコ栽培米出荷組合

◀水位と水温を確認・記録できる「水位センサー」



水位センサーの説明会